

午後 1 時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 お待たせをいたしました。

定刻となりましたので、ただいまより平成27年 2 月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、4 項目について事業発表をさせていただきます。ご質問につきましては、この事業発表から受け付けをさせていただきます。その後フリーの質疑応答へと進行したいと思っております。なお、終了は14時30分を予定しておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いします。

【市長】 それでは、2月の定例会見であります。本当に日に日に時間のたつのが、日にちのたつのが早いなというふうに感じておりますけれども、最近ではイスラム国といえますか、ああいう話題が大変多く出ていまして、世界平和とか人命のとうとき、また国際間の難しさ、そういうものを痛感しているきょうこのごろでございます。

それでは、後、座って、発表項目に従ってお話をさせていただきます。

まず、赤レンガ倉庫のレストラン館のテナントの選定についてであります。

指定管理者の株式会社丹青社によりますテナント選考会が開催をされまして、出店事業者への内定の通知を行ったこと及び契約に向けた協議を開始したとの報告がありましたので、発表をさせていただきます。

A店舗には、地元の野菜を中心としたスープレランチやクッキーなどの焼き菓子をイートインとテイクアウトショップとして敦賀市内で飲食店などの運営をされている株式会社ザバッサさん、B店舗には、地元の魚介類をメインとし大型の生けすによるライブ感あふれる飲食店として日本海さかな街に出店されている魚介類専門店の甲羅組さん、C、D店舗には、イタリアンレストラン、バー、ジェラートアンドスイーツ店として坂井市三国町で現在営業中のソニョーポリさんというそれぞれの事業者であります。この3者が4店舗に決定をいたしました。どの業者も地元敦賀の食材を使用したメニューを考案していただいているなど、大変意欲があるというふうに伺っております。赤レンガ倉庫の持つ魅力を最大限に押し上げていただけるとともに、我々と一緒に本市のまちづくりを担っていただけるものと期待をいたしているところでもあります。

メニュー、詳細等につきましては、出店者の方々へお問い合わせをいただければ幸いです。

今後の予定でありますが出店事業者が内装設計等を行い、赤レンガ倉庫の耐震補強工事との工程調整を行いながら、本年の10月のオープンに向けて内装工事等の開店準備をしていく予定というふうになっておるところであります。

次に、杉原千畝さんが発給をいたしました命のビザを持って敦賀に上陸をしたお一人でありますレオ・メラメド氏により本の寄附がありましたので、お知らせをさせていただきます。お手元を書いてあるとおりの物件、本名等々でございますけれども、寄附の目的は人道の港敦賀の史実を後世に伝えることが寄附をいただいた目的だというふうに伺っております。敦賀市の全小学校にこれは配布をさせていただきます。

レオ・メラメドさんにつきましては、昨年7月に敦賀に70年ぶりに訪問いただいたわけでございますけれども、今現在82歳になっておられます。ちょうどメラメドさんが8歳のときにこの敦賀に上陸をされ、その後、渡米をされ、シカゴのマーカントイル取引所、現在のCMEグループに通貨先物市場を創設をしまして、現在はCMEグループの名誉会長をされておられます。特に昨年7月1日には安倍総理とも会談をされたわけですが、ついせんだって安倍総理がイスラエルの記者会見で、行われた最後に敦賀のことも紹介をいただいたわけでございますし、ついせんだって私も内閣府、総理官邸のほうに出向きまして広報担当の方と面談をし、そして総理が外国に行くときとか外国のお客様が来たときに渡す日本を紹介する冊子でありますけれども、その中にも敦賀の港のこと、メラメドさんのこと等々を今度書いていただけるということで取材を受けたところでございます。3月にはできるということでもありますので、また冊子ができ上がりましたら恐らく

いただけるというふうに思いますので、また皆さんにご披露、そしてまたムゼウムのほうにも展示をしていきたい、このように思っているところでございます。

次に、私、韓国とロシアをあすから訪問させていただきます。

特に韓国の訪問につきましては、敦賀港に就航いたします外貿定期コンテナ航路の船会社に対しまして、敦賀港寄港のお礼、今後も継続をした寄港を呼びかけるトップセールスを行ってまいります。訪問船会社は株式会社のパンスター、興亜海運株式会社、汎洲海運株式会社、長錦商船株式会社の4社であります。

また、ロシアのほうは、敦賀市訪口親善使節団といたしまして、私と議長など5名で訪問をいたします。同使節団は昨年10月訪問予定でございましたけれども、台風19号の影響によりまして急遽中止になっておりました。コリャディンナホトカ市長が昨年12月で市長就任10周年を迎えまして、そのお祝いを述べますとともに、今後のさらなる姉妹都市関係の強化へのお願いのために訪問をさせていただきます。

細かい日程等々につきましては、そこに記載のとおりでございます。

次に、博物館の復旧工事の完了であります。

事業の概要といたしまして、平成24年の10月に着工しましたこの博物館は、ことしの1月31日に修復工事が完了しまして引き渡されたところでございます。総事業費につきましては、管理費を含めまして約5億2,500万円でございます。施工は清水建設株式会社、管理は公益財団法人文化財建造物保存技術協会であります。なお、この博物館は、まだ清水組の時代に今の清水建設が当初つくったものでもございました。

修復のポイントでありますけれども、展示ケース、また仮設の壁などを撤去しまして銀行カウンターを復元をいたしました。電灯も管内で保管をしておりましたガラス製の傘を利用して当初の姿に復元をいたしましたところでございます。2階のほうは、この調査の結果、壁の布張り、またカーペットなどの当初部材が明らかになった部屋がありましたので、当初の姿に復元もいたしました。また、3階は、展示用に設けておりました設備を撤去いたしましてホールとしての姿を復元をいたしましたところでもあります。地下は、建物の東西両側にありました地階への外階段やドライエリアを復元し活用を可能にしたところでございます。

今後のスケジュールでありますけれども、2月21日、22日の2日間、博物館見学ツアーを行いまして、修復後の建物の姿を市民の皆さん方にごらんをいただけます。また、3月15日には、博物館通りの記念式典に伴いますイベントも開催をいたします。そして、敦賀市立博物館のリニューアルオープンは7月4日を予定しておるところでございます。並行いたしまして、建物の重要文化財（建造物）指定を目指しまして、文化財的価値と地域文化振興の拠点としての機能をあわせ持つ博物館になるように活用を図ってまいります、このように思っているところであります。

私のほうからは以上です。

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

それでは、ただいま発表させていただきました4つの項目についてからご質問を承りたいと思います。

まず、幹事社様、お願いします。

【記者】 まず、1点目の赤レンガ倉庫の件なんですけれども、確かにことしの秋にオープンするというのでテナントも決まってきました、港町再興といいますか、そういった機運も高まってきているかと思うんですけれども、改めてちょっとまたテナントが決まって、これからどんどん進んでいくと思うんですけれども、ちょっと市長にもう一回改めて期待というか、そういったものをもう一回お願いできますでしょうか。

【市長】 この施設につきましては、やはり昔から、実は何とかあそこをいい形で活用できないかという提案はもう十数年前からいただいておったんですけれども、耐震の問題でありますとか財源の問題等がございまして、なかなか前へ進まなかったのは事実であります。おかげさまで、国、県等の支援をいただきながら、ようやくあのような形になってまいりましていよいよ動き出したわけでありまして、10月といいましてもすぐにやってくるというふうに思います。ここが私どもの観光の一つの拠点となって多くの皆さん方に来ていただける施設になるようにこれからも最大限努力をしますし、そうなるように期待をし

ながら今胸を膨らませているところであります。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、幹事社様、ございましたらどうぞ。

【記者】 同じく、赤レンガ倉庫の件について何点かお伺いしたいと思います。

まず、オープンですけれども、10月というふうなお話でしたが、正式な日程までお決まりでしょうか。

【理事 企画政策担当】 まだ決まっておりません、日にちまでは。

【記者】 それから、選考理由について、この4店舗を選ばれたその理由を、それぞれありましたらお答えいただけますでしょうか。

【理事 企画政策担当】 この選考会ですが、テナント選考会については指定管理者の丹青社のほうで主に行っております。それで理由については、ちょっと詳細はこっちでつかんでおりません。

【記者】 関連して市長にお聞きしますが、この4店舗に対して、先ほどもちょっとおっしゃっていただいたと思いますが、市外の店舗も含めまして入っておられます。目標の入り込み客数も含めまして、どのような期待を今改めてお持ちでいらっしゃいますか。

【市長】 もちろんたくさんのお客さんにご利用いただくことが赤レンガ倉庫、また地域全体の活性化にもつながっていくわけでありまして、やはり食というのは非常に重要な部分を占めておりますし、リピーターなどもぜひ獲得ができるようにいろんなアイデアを絞りながら、また、先ほど言いましたように、敦賀の食材を活用し、歴史ある港町でのレストランとしてぜひ奮闘努力をいただきたい、このように期待をいたしております。

【記者】 済みません、長くなりました。もうこれで最後にしますが、今回決まったのはレストラン館というところで、隣はジオラマ館になりまして、大きな鉄道模型も含めたような形になるというふうにお聞きしております。メインの集客ターゲットは、この秋にできてからどういうところにお持ちでいらっしゃいますか。

今ちょっとお答えいただけなかった部分でいうと、どのぐらいの集客目標をお持ちでいらっしゃいますでしょうか。

【市長】 まず、ターゲットでありますけれども、やはり鉄道と港のジオラマでありますので、恐らくお子様から、そして結構ああいいう鉄道関係に興味があるのはリタイアされた皆さん方も多うございますので、かなり幅の広い年齢層になるんじゃないかなというふうに思います。

それと、私の今聞いておる限りでは、結婚式なども行えるようなことも考えておるといふことで、やはり港をバックとしたロマンチックな場所でそういう結婚式などでもできるということ、先ほど言いましたように、子供たちからちょうどいい若者たち、また高齢者の方ということで本当に幅広うございますので、そういう皆さん方が楽しんでいただけるようなものになってほしいなというふうに期待をしておりますし、集客はたしか約8万人ぐらいを今見ておりますけれども、これより多くなることを期待をいたしております。

【秘書広報課長補佐】 よろしいでしょうか。

それでは、各社お伺いいたします。発表項目についてご質問がある方は挙手をお願いいたします。

【記者】 レオ・メラメドさんからの本の寄附なんですけれども、これ小学校の児童にはちょっと難しくないですか。指定寄附ですか、これ。

【産業経済部長】 産業経済部です。

この寄附のきっかけですが、メラメドさんが北小学校を訪問したときに命のビザに関することを今現在小学校で学んでいるということで、メラメドさんは、この中にもそういう史実が記載されている部分があるのでこの本を寄贈するという事になったわけでございます。

【記者】 そうすると、市内の小学校は幾つでしたっけ。

【産業経済部長】 現在は15校でございます。

【記者】 じゃ、15冊を寄附いただけるといふことですか。

【産業経済部長】 そうでございます。

【記者】 ということは転用はできないわけですね。中学校とか高校に持っていくというのは無理なんですか。

【市長】 15冊寄附いただきましたので、あとは購入すれば中学校のほうにもまた置けますので、できれば中学校の部分はこちらで購入して置きたいなと思います。

【記者】 校長室に置かれて、それで終わりになっちゃうんじゃないかというふうに予感をしてますけれどもね。

【市長】 大丈夫です。

【記者】 私は以上です。

【秘書広報課長補佐】 ほかにございますでしょうか。

ございませんか。

それでは、3番目のフリーの質疑応答へ移りたいと思います。

まず、幹事社様からお願いします。

【記者】 原子力のことをお伺いしたいんですけれども、先日、会見終わってから機構の松浦理事長とかが市長にもお会いなされたと思うんですけれども、どうやらお話聞くと、松浦理事長も3月末が任期ということで、恐らくおやめになるんじゃないだろうかというようなことをご自身で漏らしたんですけれども、一方ではもんじゅの抱える問題というのは全く進展してなくて問題山積という状況なんですけど、そういう中で理事長がややもすると退任してしまうかもしれないと。そういうことに関して、市長、どういうふうにお考えになるかというのをお聞かせ願えますか。

【市長】 これは機構さんの組織のお話でございますので、私どもとしては何ともお話ししようがないんですけれども、やはりそれぞれのご事情の中で退任をされ、また新しい理事長さんが、これは必ず来るというふうに思います。いろんなことがありますので、何とかしっかりとした形でもんじゅというものの重要性を認識をされ、やはり前に進むような形の組織体制をつくってほしいなというふうに思います。

【記者】 仮に理事長がかかった場合ですけれども、その理事長がかかったことによって、もんじゅの進めることについて遅滞とか、そういったものはあってはならないというようなことでしょうか。おくれというか、遅滞というか、そういったものが出てきてはいけないという、そういうことですか。

【市長】 おっしゃるとおりで、人事とその施策、またいろんな課題の推進というのは違いますし、やはり私どもも人事を行いますけれども、それはあくまでも行政課題が前に進むような形の人事をいつも行っているつもりでございますから、そういう意味では機構においても、今言ったような形で前に進むような形での人事をしっかりとってほしいなというふうに思います。

【記者】 2点お伺いいたします。

1点目は、きょう、関西電力さんのほうが高浜3・4号機に関する工事計画認可の補正申請を出されたというふうに報道入ってきております。まず、この点について、さらに一歩前進ということにはなるかと思いますが、全原協会長としてもどのように受けとめられますでしょうか。

【市長】 これは政府の方針として重要なベースロード電源であるというふうに位置づけをされ、そして安全を確認された炉は動かしていくという方針、これは政府の方針でもございますので、そういう中で薩摩川内市に始まり、今回は高浜のほうで出されたわけがありますので、もちろん最終的には立地自治体が運転等々について紳士協定と言いながらも同意という形で来ております。それはそれぞれの自治体でのご判断があるというふうに存じますが、全原協全体から見た場合には、今、全ての原子力発電所がとまっているという状況の中でそれぞれの立地地域が大変疲弊をしているということも事実でありますので、そういうことを考えていけば再稼働を、もし安全ということが認められ、またそれぞれの立地自治体がよしということになっていけば、やはり全原協全体としては明るい一つの方向性に行っているなということを感じております。

【記者】 関連で2点目の質問になりますが、一方で敦賀に目を向けますと、日本原電さんは1号機、2号機それぞれ抱えてらっしゃる問題は異なると思いますけれども、現時点で運転方針はまだ明らかにされておられません。一方で運転延長の申請期限というのは近づいてきておりますし、敦賀1・2号機に関しては特別点検というものも必要になってきます。このあたり、現時点でまだ明らかにしていないことについては、敦賀市長としてはど

のようにお考えでしょうか。

【市長】 これは、特に1号機については40年以上も経過しておるといふ高経年炉でありますし、実際のところ、28年という形が既に示されております。ということは、もうあと1年しかないという状況の中で、これは手続でありましようけれども、運転延長という、仮に申請があり、またそういう審査が行われるということがあれば、私どもとしては議論はしていきたいというふうに思っておりますけれども、全く今そういうところの動きがないということで、しばらく静観するしかないかなというふうに思っています。

また、2号機についてもまだ破砕帯の問題等々がはっきり解決しておりませんので、会社としてもなかなか手の打ちようがないというような感じで受けとめられますので、しばらく様子を見ながら、やはり廃炉というふうに具体的に決まっていりますといろんな諸問題が発生することは間違いないわけでありますので、そういう推移をしばらく見守っていきたいなと思っています。

【記者】 確認ですが、現時点で日本原電から1号機、2号機含めまして今後の運転方針について説明を受けられたことはありますでしょうか。

【市長】 まだございません。

【記者】 今おっしゃられたとおり、1号機に関しましては28年末ということで合意というか協定が取り交わされていると思いますが、運転延長ということになるに関して、市側としてこの28年の期限を、東日本大震災もあったことですので、延長するご用意というかお気持ちは現時点でおありでしょうか。

【市長】 今のところは会社からもそういうお話もございませんし、やはり40年超えという安全の対策等も必要でございますので、そういうものはお話があれば考えますけれども、今、現時点でこちらで云々ということは思っておりません。

ただ、廃炉になりますと税制面とかいろいろな諸問題、先ほど言いましたようにございます。これは国として、やはり国策として私ども協力している、特に今疲弊をしている私どものまちの状況でありますので、そういうことも勘案をしていただきながら何らかの対策があるのかどうかということもあわせて見きわめていきたいなというふうに思います。

【記者】 長くなりました。これで最後にいたします。

市長、任期が間もなく近づいておられる中で、申請期限が近づくこの運転方針、敦賀1・2号機に関しまして、いつまでに、例えば自分の任期中にはその結論を持ってきてほしいと思われているのか、その辺のデッドラインといいますか、期限についてはどのようにお考えでしょうか。

【市長】 私あと約3カ月ございますので、その間にそういう動きが出れば、また私自身の考えの中で取り組みたいというふうに思いますけれども、やはりあとは次の方を中心としてしっかり考えていただければというふうに思います。

ただ、今のどちらの候補の方を見られておられますも、原子力については比較的しっかりやろうというようなお話を仄聞はいたしておりますので、その状況をまたしっかり見きわめていきたいというふうに思います。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社ご質問ありましたら挙手お願いします。

【記者】 2点お尋ねしたいんですが、まず1点目が、ここしばらく動きは中断していませんけれども、LNGの基地を敦賀、多分たしか洋上とかというお話が出てたと思うんですけれども、その進捗状況というのを、今どうなのかというのを教えていただきたいのと、あと、去年の11月になりますが、県のエネルギー拠点化推進会議で研究炉の、県内誘致とは言っていないですけれども、必要じゃないかというようなお話が出て、確かに京大の熊取はおじいちゃんみたいな原子炉なんで建てかえの話が出てくると思うんですが、その辺、例えば敦賀に呼びたい、誘致したいとか、そういったようなお気持ちがないかどうかお尋ねできますか。

【産業経済部特任部長】 LNGの基地のことですけれども、これは今3回目のワーキンググループの会合がありまして、その後、時期はちょっとまだはっきりは聞いてませんが、県のほうの上層部の会議のほうでもう少し検討するというのを聞いています。

以上です。

【市長】 私どもも、研究炉ということでありまして、若狭湾エネルギー研究センターも

敦賀にございます。そういうことを考えていき、また福井大学の原子力工学研究所も敦賀にございます。そういうことを考えていけば、敦賀にあればいろんな研究がやはりスムーズに進むんじゃないかなというふうに思いますし、具体的にそういう話になってきて、私はできれば積極的に敦賀に誘致はしていきたいというふうに思います。これは研究のために必要なものでありますので。

【記者】 あと1点だけお尋ねしたいんですけれども、先ほど敦賀1・2号機の去就について原電さんからお聞きじゃないですかというご質問がありましたけれども、本当に聞いてないですかという。多分これだけのおつき合いがあって原電さんが何も言ってないとしたら水臭いと思うし、知ってて市長がそうおっしゃっているんだったら冷たいなと思いますし、20年されてた、手練手管もたけた河瀬市長がご存じないことは、まさかないだろうなど、私、個人的には腹の中で思っているんですが。

【市長】 どちらも、水臭い、冷たいじゃありませんけれども、今のところは聞いておりませんし、やはりまた会社としてもしっかりとしたそういうやつが固まってないので来てない。恐らくそういうことだろうと。固まれば私のところに恐らく報告に来てくれるんじゃないかなというふうに思います。

【記者】 エネルギーミックスのことでちょっと伺いたいんですけれども、先日ようやくという感じで本格的な議論が始まったかと思うんですが、スケジュール的にあんまり時間がないとも言われてもいる中ですが、市長として、具体的に原子力の比率、このぐらいが必要じゃないかとか、具体的な何かがありましたら教えていただけますか。

【市長】 第1回の会議では、何か現状を話されただけで全く具体的な措置とかが出なかったというふうに聞いておるところであります。特に、例えば震災前では約3割、数字的にいうと28%から29%ぐらいが原子力エネルギーで電力を賄っていたという現状であります。そういう中であって今の現在のエネルギー状況を見る中で、CO₂の課題もございまして、油の問題については少し値が下がっておるようではありますが、なかなかこれも変動が大きいものでありますし、そういうことを考え合わせれば従来の30%ぐらいは私はあったほうがいいんじゃないかなというふうに思いますけれども、やはり政府としても原子力の依存率を少し下げようという動きもございまして。

また、かつて新聞では15%から25%ぐらいじゃないかという予測も出ておりましたし、それとあわせて経団連のほうからは、やはり最低25%ぐらい必要でしょうというお話も出ておりました。私も立地地域の思いの中では、安全に、安定に、今我がまちにある原子力発電所が動いていくことは非常に大事なことだというふうに思っていますから、そうするとやはり25%以上は稼働が必要じゃないかなというふうに思います。それは対CO₂等々をもあわせて考えていけばそのぐらいは必要じゃないかなというふうに私は思っています。

【記者】 ちょっと追加でなんですけれども、経団連なり委員の方からも15から20というふうな数字が出ておりますが、例えば15%とかになると3・4号機の必要性についてはいかがでしょうか、見通しとしては。

【市長】 これは1号機の問題も先ほど出ておりましたけれども、やはりかなり老朽した炉と、それと福島発電所はもう恐らくといいますか、だめだと思えます。あれだけの基数は減ってまいりますので。そういうことをずっと考えていけば、仮に15%でも私は3・4号機は必要になってくるというふうに認識はいたしております。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

ございませんでしょうか。

【記者】 またもんじゅの話になるんですけれども、先日、12月に出した保全計画の見直し報告書について未点検機器というふうに報告していた内容で集計ミスがあったということ機構がレクチャーしたんですけれども、それについてどういうふうにお思いでしょうか。

【市長】 特に内部でいろんな報告を上げて打ち合わせをしてやっていく中で、この横のつながりが何かちょっとおかしくなってるのかなというように感じてしまいます。大きな原因というのはわかりませんが、やはり昔の統合ですね。サイクル、日本原子力機構、ちょっと正式名称は忘れちゃったけれども、要するに核燃料サイクルの機構、要するに動燃事業団との統合が昔ありましたね。そのあたりの統合以降、何かしっくりいってない

ような感がしてなりませんので、そういう内部での横のつながりにまだ少し違う、思いというよりも、何かぎくしゃくしてるところがああいう形で出てきたのかなというふうに思います。ぜひそういうものは、横の連携も縦の連携もしっかりとりながらちゃんと対応してほしいなというふうに思っています。

【記者】 そうすると、次の、もし理事長がかわられる場合は原研出身というよりかは動燃出身の方のほうがよろしいというお考えですか。

【市長】 それは関係ないんです。できれば全体がやはり、みんなが連携をとってやれる組織にできる人であればどういう方であってもいいというふうに思います。

【記者】 使用済み核燃料の中間貯蔵施設についてお伺いしたいんですが、今、関西電力が県との約束に従って県外で候補地をずっと探し続けているのがなかなか難航していると。かつて美浜町議会は誘致を決議した経緯もありますけれども、市長は関電の中間貯蔵については県内、県外どちらのお考えですか。

【市長】 これは全原協としても基本的には県外、サイト外ですね。サイトの中にどんどんたまっていくことはだめだということでサイト外貯蔵ということで求めてきておりますし、県の立場の中でいえば県外へということをおっしゃっております。

ただ、美浜町議会の皆さん方の思いの中で私が感じるの、やはりなかなか立地地域でないところでそういうものを置かしてくれと言っても理解が得られないであろうと。仮に立地地域であれば、今美浜町議会在示したように、自分のところなら協力できるよという、やはり原子力と長年共存してきた地域ならではのそういう思いがありますので、そのあたりは中間貯蔵等で非常に苦慮されておりますし、これは県のスタンスになりますので、何とも私、本当は言いがたいところがありますけれども、基本的には県外であります。ただ、それを貫き通すことによって結局そういうものができず行き詰まってしまうということは非常に残念であります。ぜひいま一度議論をする必要があるのかなというふうには感じております。

【記者】 もし、今関電、県内立地しているのは美浜や高浜、大飯ありますけれども、そこでも県内でやるとき無理なら敦賀でも構わないというお考えはありますか。

【市長】 私どもは日本原電等々ありますし、関西電力さんは大飯、高浜、美浜ということですので、あんまりこちらから云々と言うことは避けたいと思います。

【記者】 今の中間貯蔵施設のご回答の中で、基本的には県外ということで行き詰まるのは残念である、いま一度議論をする必要があるとおっしゃったのは、つまり、県も関電も今は県外って言っていますが、県内も含めて議論を再び始めるべきであるというお考えなんでしょうか。

【市長】 要するに、中間貯蔵ができないことが残念であるわけですね。要するに、原子力、いろんな核燃料サイクルが進みませんので。ただ、基本的には県外であるという県の立場、そしてまた美浜町の議会のように、一度議論をしてもいいですよ、誘致してもいいですよというところがありますから、やはりそこでの調整というものはどこかで必要がもう出てくるんじゃないかなということをお話をしました。

【秘書広報課長補佐】 ほかにございませんでしょうか。

【記者】 3点ぐらい伺いたいんですけども、河瀬市長、あと任期3カ月ということなんですけれども、全原協会長としても20年間ずっとやってこられてあと3カ月ということなんですけれども、これまで20年間全原協会長をやってきて、全原協会長にとって大事なことで、必要なことはどういうふうなことやなというふうな。ちょっと東日本大震災前と後とで全然、何か役割も変わってきたのかなとは思いますが、20年間やってこられて全原協会長に必要なことってどういうふうなことだとお考えになりますか。

【市長】 これはどういう立場でもそうでしょうけれども、地元をしっかりと愛する気持ちが大事でしょうし、原子力を持っておるとい地域というのは、ちょっと特殊性といえますか、いろんな面で、首長さん初め全国の立地地域を見ておられてもやはり苦労が多いなということを感じました。

その立地地域にあっても原子力があっても、またいろんな状況が違う場合もございまして、やはり全原協全体とすれば、それぞれの皆さん方の意見をしっかりと聞き、そして集約をし、それをまた国、また関係のところ伝えていかなくちやならん仕事だというふう

に思っていますし、そういう意味では聞く耳をしっかり持った形で、次期なられる方はそのような形でしっかり全原協を引っ張って行ってほしいなというふうに思います。

【記者】 それと河瀬市長にもう1件で、来年に敦賀1号機が運転を終了する予定ということになっていると思いますけれども、敦賀市の10億円弱ぐらいですか、このままの制度だったら収入が減ると思うんですけれども、どういうふうな経費節減策とか財源確保が必要だというふうに市長は考えられていますか。

【市長】 特に1号機が仮に廃炉になった場合には固定資産税の激減がありますので、やはり激減緩和という形で、まずこれはもう全原協を通してずっと国のほうにお願いをしておるんですけれども、ソフトランディングのような形でおさめてほしい。まだこれは明快な答えはいただいておりませんが、それをまず何とか了解をいただけるような状況に持っていきたいというふうに思っています。

それと、財源につきましては、これから観光でありますとか港、いろんなところの工夫をしながらまちが元気になっていくことよっての税収の確保もありましようし、これだけ経費節減というふうになってきますと、非常にこれだけ社会保障関係でありますとか福祉でありますとかいろんなことを充実をさせてきましたし、そういうものに少し陰りが出る可能性も出てまいりますので、先ほど言いましたような形でしっかり財源確保する、そのことはやはり原子力と共存共栄していくことよって新たな財源も確保できるというふうに私は思っております。

【記者】 わかりました。

最後なんですけれども、塚本副市長にお伺いしたいんですけれども、アクアトムが全く、9月ぐらいに動きがあるのかなというふうな、県と市が機構に無償譲渡を申請するみたいな話があったけれども、それからどうなっているのか、現状を教えてください。

【塚本副市長】 9月議会でも言いましたように、県と市で協力してやるというところは言っていました。あとは事務的に話を進めて少しでも早く解決しようという姿勢は県も市も一緒です。ただ、やっぱり事務的に、後から企画政策部理事のほうからコメントあるかもしれないけれども、少しそういう事務的なところでお互いの見解が違うところがありまして、そこで足踏みしているんですけれども、再度言いますけれども、前向きに早く解決しようという姿勢はあります。しかし、あと年度内2カ月ですので、若干ちょっと年度内解決が難しくなっているかなというふうな思いはあります。

【記者】 具体的に何が、前も伺ったと思うんですけれども、何がネックになっているんでしょうか。見解の違いというのを。

【塚本副市長】 幾つかあるんですけれども、細かい話、議案についての議会承認云々の話とかその他幾つかあると思いますけれども、それまで必要ですか。

【記者】 理事はどういうふう考えられているんですか。

【理事 企画政策担当】 今、塚本副市長がおっしゃったとおり、事務的なところもさまざまございますからそこを詰めている段階だ、状況だということでございます。その詳しい話については差し控えさせていただきます。

【記者】 来年度予算ということになると、市長選挙があるので骨格予算にはなると思うんですけれども、アクアトムの本年度内解決が難しいということは、来年度予算にその経費を盛り込むこともちょっと現時点では難しいというか、見送るというか、そういう状況なんですか。

【塚本副市長】 市長査定までしかつとやりますけれども、今の現在、あと2カ月ぐらい、あるいは市長査定って少し手前ですから、そこら辺までのことを考えると当初予算に盛り込むのは難しいなというふうに思います。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 河瀬市長に1点お伺いしたいんですけれども、先ほどの質問に関連して、いよいよ敦賀1号機の運転停止する時期がスケジュール的に具体的に近づいてくる中で、例えば地元の雇用を保つために、何かしらその産業の育成であったりとか、市側として何かしら具体的に検討している部分があるかどうかということをお聞きしたいなと思ひまして。

【市長】 この廃炉はまだ具体的にはなっておりませんが、いずれにしても廃炉と

いうのは必ず全国各地にあります発電所はなってきました。現には今、私どもはふげんを廃炉作業に取り組んでおりますので、そういう意味では1号機の廃炉ということは具体的に変わったときにも、いろんなふげんで取り入れられた技術も活用されてきましょうし、これから全国にたくさんそういうケースも出てまいります。今も福島事故を起こした炉の廃炉に向けていろんな作業の方が進んでおりますし、敦賀からもかなりの方が行っておられるということを伺っております。そういう意味でしっかりとした廃炉技術、これは世界にもこれから発信していかなくてはならぬことでもあります。また、県のほうでもそういう廃炉に向けた課も今つくっておりますので、そういうところと連携をしながら、やはり敦賀から多くのそういう技術を発信できるようにできたらいいなとも考えております。

【秘書広報課長補佐】 ほかにございますでしょうか。

【記者】 先ほど質問された中間貯蔵に関連してですが、先ほどの質問は大飯、高浜、いわゆる他のプラントサイトの使用済み燃料を敦賀で誘致というか、敦賀に貯蔵するかというふうな趣旨の質問だったかと思いますが、確認なんですけれども、敦賀で発生してしまった使用済み燃料については敦賀で中間貯蔵施設をつくり、そこに貯蔵すると、一時保管をするというような考え方というか、そういうことも選択肢に上げて議論をしていくべきではないかというふうに考えればよろしいのでしょうか。

【市長】 これは具体的に例えばそういう話が出てきたときに、やはり議会の皆さん方ありますとか市民の皆さん方の声を聞いて判断すべきだというふうに思います。まだ今のところ、敦賀のほうではそういう話は出ておりませんので、出てきたら、やはりそういうことについても議論はする必要があるというふうに私は思います。

【記者】 自前の物は自前のところという、ほかのところを受け入れるものではないけれども自前のところは自前でという、場合によってはそういうことも考えてもいいと。

【市長】 恐らくこの中間貯蔵が県外ということでのお話で、ほかの全く原子力の立地していないところに持っていくといいましても、なかなかこれは理解が実は得られていないのが実情でありますし、一般廃棄物に例えても、これは私ども自区内処理が原則といいまして、例えば敦賀で出たごみを敦賀で焼却をして、敦賀で最終処分をしていこうという、これはまた広域ないろんな話になれば別でありますけれども、自区内処理が原則という実は話もありまして、そうなってくると、発電所が出た廃棄物についてもできればそういう形をとればいいんですが、やはり最終処分場までとなるとなかなかそこに適した場所がないとこれはできませんので、そこは今いろいろと国も幌延、また岐阜のほうでも研究をされていますので、そういうものが将来確立されていくことを期待はいたしております。そういう自区内処理というようなことを考えれば、やはり自分のところで出たごみは自分のところで処理していくというのは極めて普通のことかなというふうに思うのと同時に、話は飛びますけれども、結局そのごみを減容化、そして無毒化といいますか、少しでも毒性を少なくする研究がもんじゅでありますので、もんじゅにしっかりしてほしいなというふうに思っております。

【秘書広報課長補佐】 ほかにございますでしょうか。

【記者】 たびたび済みません。先ほど全原協会長についてのご質問がありましたが、全原協会長職というのは自動的に次の敦賀市長がなられるんですか。

【市長】 ちょっと私そこがわかりませんもんで。ひょっとすると、総会がありますのでそこまで会長を続けて次期にかわるのかというのが、私が20年前かわったときもやっぱり総会からなったような気がしますので、その辺ちょっと調べます。何せみんな感覚がないもんですから、矢部さんが3期12年やって、高木さんが4期16年やって、私が5期20年やるとるもんですから。その辺のところは一度調べますけれども、ひょっとすると、あて職ではあるけれども会長職となると、その辺は一遍調べます。

【記者】 それで、会長職は敦賀市長以外になることはないんですね。

【市長】 いや、これはそんなことはないんです。たまたま創設のときから敦賀市長がずっと来ておりましたので、これはあくまでも役員会がありますし、その役員の中で大体決めるようになってます。それが敦賀市長が続いてきたということです。

【記者】 万が一、会長が敦賀市長でなければ事務局も当然その会長のいる自治体ということですね。

【市長】 はい。会長市町村がその事務局を持つようになってます。やっぱりそういうちょっと問題もあったりして、それと年に数回のいろんな役員会なり総会ですから今までそういう形で来ていたんじゃないかなと思います。

【秘書広報課長補佐】 ほかにございますでしょうか。

ございませんか。

それでは、これをもちまして2月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ご協力ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

午後2時20分 終了